

島根大学プロジェクト研究推進機構  
平成17年度研究成果報告会  
参加者アンケート集計結果

◇回答者 計35人

島根大学関係者 (29) 教員 (16) 技術系職員 (0) 事務系職員 (0)  
学生・院生 (12) その他 (1)

研究者・技術者 (5) 自治体等の調査研究機関 (3) 民間会社 (2)  
その他 (0)

その他 (1) 一般市民 (0) 報道関係 (0) その他 (1)

Q1 今回の成果報告会の中で関心があったプロジェクトに○をつけてください。(複数回答可)

汽水域 (7) 中山間 (4) 長寿健康 (23) S-ナノテク (8)  
その他の研究プロジェクト (0)

Q2 最も関心があったプロジェクトを一つ選び、以下の質問についてお応えください

○汽水域の自然・環境再生研究拠点形成プロジェクト (7)

・研究の目的、進め方等について

良い (1) おおむね良い (4) 改善の余地がある (1)

「改善の余地がある」と回答された方は以下に具体的にご意見をお書きください。

- ・ AチームとB・C・チームの連携が重要であり、成果につなげるのであればAチーム独自のモニタリングではなく、B・Cチームの検証的モニタリングを強化する必要がある。社会科学的なD・Eチームはいかに市民に認知されるか、さらに努力するべきである。(回答者：教員)
- ・ 財産としての汽水域の大切さを認識した。センター長の今後の取組みに期待したい。このプロジェクトはもう少しTVなどを通じて宣伝するような努力をして欲しい。県や市との連携も必要ではないか。(市民との連携も必要ではないか。)(回答者：その他)

・研究成果について

満足できる (1) ほぼ満足できる (5) 不満 (0)

「不満」と回答された方は以下に具体的にご意見をお書きください

○健康長寿社会を創出するための医工農連携プロジェクト (15)

・研究の目的、進め方等について

良い (5) おおむね良い (8) 改善の余地がある (2)

「改善の余地がある」と回答された方は以下に具体的にご意見をお書きください。

- ・ マーケティングに関しての方向性が今回、明示されていない。大学が作れば売れるとかではなく、消費者がどのようなニーズを要求しているかを詳細に調査する必要がある。骨加工に関していえば「中島プロペラ」が骨を加工する技術開発をしている。特許侵害調査やマーケティングについては、かなり意識をもって勢力的に行うことが肝要である。  
(回答者：学生・院生)
- ・ 健康長寿にテーマを絞った結果、合併のメリットを生かした連携が制限され、評価をうける面からも損な印象。むしろ、学部を超えた共著論文が出せるような研究を活性化すべきであろう。次のプロジェクトは他学部との共著論文があることを応募条件にすることからアナウンスしたらどうか？ (回答者：教員)
- ・ 広範囲にわたりすぎていて、各プロジェクトの連携が薄れている。例：“健康長寿”と“数理”が結びつかない。(回答者：教員)

・研究成果について

満足できる (5)      ほぼ満足できる (9)      不満 (1)

「不満」と回答された方は以下に具体的にご意見をお書きください

- ・ どこまでが連携なのか。共同 (連盟) の学会発表数を公表すべきであろう。(回答者：教員)

○中山間地域における住民福祉の向上のための地域マネジメントシステムの構築 (1)

・研究の目的, 進め方等について

良い (0)      おおむね良い (1)      改善の余地がある (0)

「改善の余地がある」と回答された方は以下に具体的にご意見をお書きください。

・研究成果について

満足できる (0)      ほぼ満足できる (1)      不満 (0)

「不満」と回答された方は以下に具体的にご意見をお書きください

○S-1 ナノテクプロジェクト (4)

・研究の目的, 進め方等について

良い (2)      おおむね良い (2)      改善の余地がある (0)

「改善の余地がある」と回答された方は以下に具体的にご意見をお書きください。

- ・ ZnOに絞っていることは非常によい。まとまって一つのことを。チタン酸バリウムも。  
(回答者：民間会社)

・研究成果について

満足できる (2)      ほぼ満足できる (1)      不満 (0)

「不満」と回答された方は以下に具体的にご意見をお書きください。

- ・ 成果の内容が少し分かりにくい。一般の材料との比較など混ぜて欲しい。強誘電体については残留分極特性を示す必要があるのでは？ (回答者：自治体等の調査研究機関)

○石見銀山地域～島根半島の古熱水系における複合資源システムとたたら鉄資源（1）

- ・ どうしてそこに銀山ができたのかをいろいろ説明して下さった。意外と知られていないことが多いと思った。（特に自然科学的部分）地場産業などへも範囲を広げていただければと期待した。（回答者：その他）

**Q3 今回の報告会についてどんなことでも結構ですのでご意見をお書きください**

- ・ 多額予算を使った成果発表としては、会場が狭い。（回答者：教員）
- ・ 島根発の技術・方法の開発が重要。このシーズを民間に落として実用化し、県企業の活性につながるようにして欲しい。（回答者：民間会社）
- ・ 健康長寿P Jは新しいとみえるものがある。（ヒノキの発毛など、製品がある。）商品リサーチを行ったのか疑問。先行品があると無駄になる可能性あり。
- ・ 大変学際的な内容であり、勉強になった。一般の学生・院生向けにも分かりやすい公開セミナーが別にあればよいと思う。（回答者：教員）
- ・ 人づてに聞いて参加させていただいたが、もう少し宣伝してもよかったのではないかと。（回答者：その他）
- ・ 今後も行っていただきたい。会場がもう少し広いほうが良いだろう。（回答者：教員）
- ・ 発表の中で「住民の理解・周知」ということをいわれたが、大学と行政とが連携し、一般市民に分かりやすい情報公開をしてほしい。一方で、行政内部にもいきわたるようにすべきと感じた。第三者的な視点からの研究成果を理解することで、従来とは違った目で地域を見つめ直す事ができる。充実した内容と成るように頑張ってください。（回答者：自治体等の調査研究機関）
- ・ 研究成果報告会であるので、研究成果に関係するものみにしてほしい。例えば、論文数や資金獲得状況など、自慢話のようで不快である。評価としては必要であるが、報告会としてはどうか。（回答者：教員）
- ・ 内容は内容として、報告は時間を守って下さい。時間に厳格に。「汽水域」には期待している。明確な将来ビジョンというか夢を提示してほしい。（回答者：民間会社）
- ・ 医学部とのリアルタイムでの講演が良かった。（回答者：学生・院生）
- ・ 発表時間の厳守。関係者以外の参加の促進（回答者：教員）
- ・ 松江会場からの発表の場合、出雲会場の発表画面のピントがずれていて見にくかった。（回答者：学生・院生）
- ・ 出雲会場の参加者が少なく、プロジェクト研究への関心が広まってないように感じた。（回答者：学生・院生）
- ・ 子どもの教育・生活環境・改善等々、子どもに関するプロジェクトがあればよいのではないかと。もちろん、他の機関による対策があるけれども。（回答者：島大関係者・その他）
- ・ 時間が短く、研究内容が不明。各プロジェクト1つでよいから最も自身のあるテーマを15分かけて研究内容を発表するようにしてほしい。プロジェクト間の連携をとり、大学全体の活性化をすることも考えるべきではないか。（回答者：教員）
- ・ 多くの研究者が関わっているので横のつながりを大事にしたなら、うまくいくのではないと思った。（回答者：学生・院生）
- ・ 自分の骨で“ねじ”をつくり、それで骨折の補綴をするということは興味深い。輸血みたいな感じで輸骨ができるといい。（回答者：学生・院生）
- ・ 昨年、今年度はプロジェクトの目標達成のための下準備という印象を受けた。来年度は更にいろいろな展開が予想され、期待ができるプロジェクトがあると思った。（回答者：学生・院生）
- ・ せっかくおもしろい報告会なのでもっと企業にも宣伝して来てもらえるようにしてほしい。

(回答者：自治体等の調査研究機関)